

大会規則及び選手注意事項

1. 本大会は、2020年度日本陸上競技連盟競技規則ならびに、本大会要項及び申合せ事項によって行う。ただし、162条5については適用しない。
2. 競技者の招集について
 - (1) 事前に欠場が明らかな場合には、朝の受付時にエントリーシートの種目欄に赤線を引き提出すること。
 - (2) 招集所は設けず、リレーを除き、現地集合とする。
トラック種目は各種目のスタート地点付近、フィールド種目は各種目のピットに集合すること。
 - (3) 招集は、出場できる服装で集合し、密集を避け係員の指示の指示に従うこと。
各集合時間の基本は次のとおりとする。組ごとに招集時間を設定するので、タイムテーブル招集時間を確認すること。招集開始時間よりも早く集合することを禁止する。

		招集開始	招集完了
トラック	予選 準決勝	競技開始 15分前	競技開始 10分前
	決勝	競技開始 15分前	競技開始 10分前
フィールド	決勝	競技開始 投擲 25分前 跳躍 35分前	競技開始 投擲 20分前 跳躍 30分前

*但し、棒高跳は競技開始60分前に完了し、競技場内での練習時間をとる

- (4) 四種競技についても同様のかたちで行う。トラック種目は各種目のスタート地点付近、フィールド種目は各種目のピットへ集合すること。
 - (5) リレーについては、メンバー全員で1走のスタート地点付近(100mゴール)に集合すること。
 - (6) フィールド種目の待機場所では1.5m間隔で待機する。指示された指定場所を使用すること。
3. 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は最後の1人になるまでは、次の規定による。
(これを原則とし、主任の判断で変更もありうる。)

[走高跳]

共通男子	練習(1m20)	1m30	35	40	45	50	55	60	65	70	75
四種男子 1年男子	練習(1m10)	1m15	20	25	30	35	40	45	50	55	60
共通女子	練習(1m10)	1m15	20	25	30	35	40	45	48	以後は 3cmずつ	
四種女子 1年女子	練習(1m00)	1m05	10	15	20	25	30	35	40		

[棒高跳]

共通男子 1年男子	練習(1m80)	1m80	1m90	2m00	2m10	2m20	2m30	2m40	以後は10cmずつ
--------------	----------	------	------	------	------	------	------	------	-----------

4. 走幅跳と投擲種目については、トップ8を決めるまでの試技を3回とする。トップ8確定後の試技も3回とする。ただし、新型コロナウイルス感染症拡大対策を考慮し、試技回数を変更する場合がある。

5. アスリートビブスは、小中体連指定のアスリートビブスを所属校で用意して使用し、必ずユニホームの胸・背両面に結着すること。(跳躍種目はどちらか一方でもよい。)なお、申込ナンバーからの変更は認めない。アスリートビブスがない場合は、本部にて1枚100円で購入し、登録済みのナンバーを書き入れて出場すること。また、トラック競技に出場する競技者はレーンナンバー(腰ナンバー)をユニフォーム下衣の右やや後方へつけること。
6. トラック競技・走幅跳のスパイクのピンの長さは9mm以下を使用し、走高跳は12mm以下とする。WA規則第143条(TR5:シューズ)のルール再改訂により、シューズの厚さについて、規定外シューズを使用する場合はリザルトに注記する。詳しくは日本陸連のHPを確認すること。
7. 腰ナンバー標識はHPに掲載されるプログラムでレーンを確認し、各校で用意すること。作成にあたっては、横18cm×縦12cmを標準とし、太字ではっきりと書くこと。
8. トラック種目のゴール後は、そのまま大きく左回りで競技場内の走路とスタンドの間を歩き、スタート地点まで戻る。このとき、同じ組の選手たちと1~2mの距離を空けて縦に並んで歩き、会話や接触等がないようにすること。ただし、ゴール後にフィールド種目の出場選手は競技時間が重なっている場合のみ、メインスタンド前を通過することができる。
9. リレーについて
 - ①リレーオーダー用紙を作成し、招集完了1時間前までにTICへ提出する。リレーオーダー用紙については、事前にFAXで各校に送信したもの、もしくはホームページからダウンロードしたものを使用すること。
 - ②予選では予めエントリーした選手から2名以上が走らなければならない。決勝では予選で走った4名中の2名以上が走らなければならない。(エントリー以外の選手が走る場合は大会プログラムに記載された選手)
 - ③個人種目の種別に関わらず、いずれの種別のリレーにもエントリー、出場ができる。ただし、1年、共通に重複してのエントリー、出場はできない。例)1年の部のリレーにエントリーした場合、共通の部のリレーにエントリーすることはできず、出場もできない。
10. 表彰について
 - (1)各種目とも3位までに賞状を授与する。表彰場所はバックスタンドを予定。
 - (2)表彰については3位までとし、机上に用意してある賞状を自分で取って台上へ登る。
11. ウォーミングアップについて
 - (1)ウォームアップエリアとして補助競技場を使用できる。
 - (2)選手と指導者のみ入場することが可能になる。入口で指導者の入場許可証による入場規制を行う。
 - (3)使用する際には、競技役員の指示に従うこと。
 - (4)雨天練習場は走幅跳の待機場所とする。該当種目の選手以外の立ち入りを禁止する。
 - (5)リレーは除き、集団でのアップは禁止とし、個別に距離を保つこと。特に補助競技場での走高跳、砲丸投ピットの使用は、役員のいない中では禁止とする。棒高跳については、補助競技場のマットの使用は禁止とする。
12. その他
 - (1)大会運営のために必要に応じて競技役員より指示が出されたときはそれに従うこと。
 - (2)物品の管理について、各自の責任において紛失・盗難等のないように注意すること。
 - (3)ゴミの処理については各校持ち帰りを徹底し、競技場や公園内に残していかないこと。
 - (4)不正スタートは1回で失格とする。四種競技は2回目以降の不正スタートをした者が失格となる。ただし、第162条5については適用しない。
 - (5)共有の用具に触れる種目では競技前に手を消毒し、競技後にまた手を消毒すること。
例:100m スタート前に手を消毒、スタプロに触れる、ゴール後に手を消毒
砲丸投 投擲前に手を消毒、砲丸を投げる、一投投げるごとに手を消毒
 - (6)選手は原則としてマスクを全員が着用、しかし熱中症対策として個人の判断においてマスクを一時的に外すことも可。(競技時は外しても良いが、待機中は着用する)
 - (7)ベンチの密を防ぐため、選手にはメインスタンドを解放する。保護者はバックスタンドでの観戦が可能となる。生徒以外は入口で入場許可証による入場規制を行う。
サイドスタンドの観戦は禁止する。
 - (8)競技場内の入口は100mスタート地点付近のゲートのみとする。
 - (9)握手やハイタッチ、ハグ等の接触するような行為を避ける。
 - (10)スタンドに集団でいることや声を出しての応援は禁止する。接触するような行為を避ける。